

NO 4057		レジメン名 BV-FOLFOX4(CVポートなし)	
病棟 患者番号 氏名	癌種	ステージ	PS
年齢	身長	体重	体表面積
歳	cm	kg	m ²
【適応がん種】 Colon K			指示医師名
BV/LV/L-OHP/5FU			~
1・ベバシズマブ 5(~10) mg/kg	DAY1	CCr補正	GOT補正
2・レボホリナート 100 mg/m ²	DAY1. 2	-	-
3・オキサリプラチン 85 mg/m ²	DAY1	-	-
4・フルオウラシル Bolus 400 mg/m ²	DAY1. 2	Ccr60-40-20 (50-35-25%)	
5・フルオウラシル 持続 600 mg/m ²	DAY1. 2	30~	禁5.1
		30~	禁5.1
		WBC基準	HGB基準
		3000	9
		T-Bil	Scr
		施設基準値の1.5倍以下	2.5倍以下
14日(2週)1クール		【病状】	
		1 全て説明している	
		2 病名は説明しているが、詳しい病状については説明していない	
		3 未告知である	
		【治療】	
		1 抗癌剤による治療・予防と説明	
		2 抗癌剤とは言わず治療薬と説明	
		3 抗癌剤とは言わず予防薬と説明	
		4 薬に関しては説明していない	
		平成20年7月1日 改訂	
NO 薬品1	規格	本数	薬品2(規格本数)
① パロノセトロンバック		1 本	
② デキサメタゾン 6.6mg		1 本	★生食50mL
③ ベバシズマブ()mg	400mg	本	生食100mL
	100mg	本	
④ 生食50mL		1 本	
⑤ レボホリナート()mg	100mg	本	▲5%ブドウ糖250mL
	25mg	本	
⑥ オキサリプラチン()mg	100mg	本	▲5%ブドウ糖250mL
	50mg	本	
⑦ フルオウラシル Bolus()mg	1000mg	本	★5%ブドウ糖50mL
	250mg	本	
⑧ フルオウラシル 持続()mg	1000mg	本	ソルデム3A500mL
	250mg	本	
⑨ 生食50mL		1 本	
全開で点滴 主・15分で点滴 デキサメタゾン終了後～ 主・1時間30分で点滴 ベバシズマブ終了後～ 主・全開で投与 生食フラッシュ後～ 主・2時間で点滴 生食フラッシュ後～ 側・2時間で点滴 レボホリナート終了後～ 側・全開で投与 フルオウラシル Bolus終了後～ 主・23時間で持続点滴 輸液ポンプ使用！！ Day2のフルオウラシル終了後～ 全開で点滴			
【1. 原則禁忌】 ●脳転移患者(脳出血のおそれ) 【2. 投与前必須検査】 ●投与前・後に血圧測定 BP180/120を超える場合は主治医へ報告 ●ベバシズマブ検査セット(●血液算定●T-Bil●GOT●GPT●ALP●ALB●Scr●CRP●尿蛋白測定 ●PT-INR●APTT●フィブリノーゲン●D-ダイマー) 【3. 投与可能条件】 ●WBC3000以上(好中球1500以上)●HGB9g以上●PLT100000以上●T-Bil施設の基準値1.5倍以下 ●GOT/GPT/ALP基準値の2.5倍以下(肝転移を有する場合は5倍以下)●血清クレアチニン値基準値の1.5倍以下 ●水性下痢を認めない●感染を疑わせる38℃以上の発熱が無い ●グレードⅡ以上の非血液毒性(食欲不振を除く)を認めない 【4. 減量方法】 ●白血球1000未満(好中球500未満)●血小板数50000未満●消化器系グレードⅢ以上の有害事象 上記のいずれかを認めた場合約20%程度減量考慮 (オキサリプラチン85→65mg/m ² フルオウラシルBolus400→300mg/m ² フルオウラシル持続600→500mg/m ² 程度へ減量)			
月日	指示	指示医	受け 監査 払い 払監 調製 調監 前確 実施
	①②③④⑤⑥⑦⑧ DAY1		
	② ⑤ ⑦⑧⑨ DAY2		
ベバシズマブ投与 リスク患者: 1) 消化管など腹腔内の炎症を合併(消化管穿孔のおそれ) 2) 大きな手術の術創が治癒していない(創傷治癒遅延による合併症) 3) 先天性出血素因、凝固系異常のある患者(出血のおそれ) 4) 抗凝固剤投与中の患者(出血のおそれ) 5) 血栓塞栓既往患者(心筋梗塞、脳梗塞、深部静脈血栓症、肺塞栓症のおそれ) 6) 高血圧患者(悪化のおそれ) 7) 高齢者(重大な副作用が現れやすい) 8) 妊婦、授乳婦(動物実験で催奇形性、授乳中に移行)			